

メルケル四選阻止のワイルドカード

発表日：2017年1月25日(水)

～SPDがシュルツ前欧州議会議長を首相候補に擁立～

第一生命経済研究所 経済調査部
主席エコノミスト 田中 理
03-5221-4527

◇ 9月に連邦議会選挙を控えるドイツでは、二大政党の一角を占めるSPDがシュルツ前欧州議会議長を首相候補に擁立し、党勢回復を目指す。今のところ可能性は低いですが、SPDの支持回復とCDU/CSUの支持低下が重なれば、SPD主導の左派連立政権誕生の可能性が浮上し、メルケル首相の四選が危ぶまれる事態となる。シュルツ氏の選挙キャンペーンの成否を占ううえで、同氏の出身州であるノルトライン＝ヴェストファーレン州議会選挙の行方に注目している。

各種報道によれば、ドイツの社会民主党（SPD）は9月24日の連邦議会選挙での首相候補として、シュルツ前欧州議会議長を擁立する方針を固めた模様。当初、現政権で副首相兼経済エネルギー相を務めるガブリエル党首が立候補するとみられてきた。1月5日付けの最新の世論調査で、シュルツ前議長の支持率は57%と、ガブリエル党首（43%）やメルケル首相（56%）を上回る。現在、SPDの支持率は20%台前半で低迷しており、30%台後半を維持するキリスト教民主/社会同盟（CDU/CSU）に大きく水をあけられている。国民からの人気の高いシュルツ前議長を擁立することで、秋の選挙戦に向けSPDは党勢立て直しを目指す。シュルツ氏は2014年の欧州議会選挙での同党躍進の立役者とされる。同氏が率いたSPDは、CDU/CSUの35.3%にこそ届かなかったものの、2009年の前回選挙を6.5%ポイント上回る27.3%の支持を獲得した。同氏は伝統的なSPD支持層からの信頼も厚く、欧州議会議長としてのEUレベルでの実績も訴えることができる。メルケル政権の現職副首相・閣僚という立場のガブリエル党首が、政権寄りの政策を実行する立場から、SPD支持層の期待に十分応えられなかったのに対し、欧州議会を中心に議員活動をしてきたシュルツ氏は政権と距離を置く首相候補として、よりアグレッシブな選挙キャンペーンを行なうことが可能と目されている。ただ、閣僚経験のなさが同氏の弱みとなりそうだ。

欧州各国でEU懐疑政党が躍進するなか、ドイツでも2013年に旗揚げされた右派ポピュリズム政党「ドイツのための選択肢（AfD）」が10%台半ばの支持を獲得し、連邦レベルで初の議席獲得が確実視されている。今のところ議会選でのCDU政権の存続を脅かす状況にはなく、選挙後もCDU/CSUとSPDの二大政党による連立政権が誕生するとの見方が支配的だ。ただ、連立政権に加わったことで独自性を失ったSPDは、緑の党（Grüne）、左翼党（Die Linke）とともに左派連立政権の可能性も模索している。それほど可能性が高い訳ではないが、シュルツ氏の擁立でSPDが支持を大きく回復したり、新たなテロ事件の発生や難民危機再燃でメルケル政権への支持が低下する場合、メルケル首相の四選に黄信号が灯る恐れもある。欧州の盟主ドイツのリーダーシップに対する不安が広がれば、難民危機や英国のEU離脱危機に揺れる欧州の舵取りにも影響しかねない。シュルツ氏率いるSPDの選挙キャンペーンの成否を占ううえで、同氏の出身州であるノルトライン＝ヴェストファーレン州議会選挙（5月14日）に注目したい。

以上